

# 少年式 ~自覚・立志・健康を誓う~

平成17年2月4日（立春の日）、上島町各中学校で「少年式」が行われ、保護者や関係者が見守る中、各学校の中学2年生が、決意も新たに大人への第一歩を踏み出しました。

この「少年の日」は、満14歳になった少年少女をみんなで祝福する日です。男子は「元服」、少女は「髪置木」といった故事に習い、大人への自覚を促すため、愛媛県下では、昭和40年より行われているものです。そこで、今号では、各学校代表の「少年の日の主張」と少年式の模様をご紹介します。

## 魚島中学校 【1名】

### 「少年の日を迎えて」

魚島中学校二年 横井さゆり

立春の日の今日、私は少年の日を迎えました。大人に少し近づいてうれしく感じるのと同時に、大人になることへの不安もあって少し複雑な気持ちです。

この少年式には、社会の一員として責任ある行動をするよう心がける「自覚」、自分を見つめ直し、将来について考え、志を立てる「立志」、はじめのある生活習慣を身に付け、たくましい心と体を育てる「健康」の三つの目標が掲げられています。そこで、この三つの目標にそって、今までの自分を見つめ直してみます。

まずは「自覚」についてです。責任感はあるほうだと思います。しかし、まだ子どもなんだからとあまえている自分がいて、大人への階段を上り始めているという自覚がまだまだ足りません。学校生活でも、三学期より、三年生からバトンを受け継ぎ、魚島中学校の生徒会長として、学校を動かす立場になりました。その意味でも、はじめをきちんとつけ、よりいっそう責任ある行動ができるよう日々努力したいです。

次に「立志」についてです。私の将来の夢は、美容師になることです。小さい頃からこの職業に憧れていました。その理由は、髪を切ることで人の役に立っているかっこいい職業だからです。

私は、これまでに学級活動の時間などで美容師について調べてきました。美容師になるためには、厳しい修行を根気よく続けなければいけないそうです。いつもかっこよく見える美容師さんの裏側には、大変な努力があるんだろうなと思います。



関係者に見守られながらの少年式

少年式を運んだ横井さゆりさんの家族

記念品贈呈

ます。

今度私は、美容院で職場体験学習をさせていただきます。体験先が決まったときには、前からなりたかった美容師の仕事が体験できることをうれしいと思いましたが、同時に、「職場の人に迷惑をかけるまいだろうか。」「親しく話ができるだろうか。」など、大きな不安も感じています。でも、実際に仕事をしている職場に訪問して、直接、美容師さんからお話を聞いたり、仕事を体験させていただいたりすることは、私にとって貴重な体験になると思います。そして、少しでも美容師さんの働いているところを見て、この仕事の良さや大変さなどを感じ取れたらいいなと思っています。この職場体験学習を、進路について考えるきっかけとし、一年後に迫っている高校進学についても真剣に考えていきたいです。

三つ目に「健康」についてです。私は休みの日になるとつい睡眠時間が不規則になり、食事のバランスもくずれがちです。だから、生活習慣をもう一度見直し、早寝早起きや、栄養バランスのとれた食事などができるよう心がけたいです。また、私は最近運動をあまりしていないので、自分にあつたスポーツを見つけて体を動かし、心身共にきたえたいです。それが、将来厳しい修行にもたえられる強く、たくましい大人になることにもつながると思います。

以上、「自覚」「立志」「健康」の三つのことを大切にしながら、今まで私を支えてくれた家族、友達、地域の方々、先生方への感謝の気持ちを忘れずに、この先に続く階段を上っていきたいです。最後に、「将来の夢」という詩を読みます。

### 「将来の夢」

私の将来の夢は美容師さんになること。小さい頃からの夢ですと憧れていた。

美容師になるためには厳しい修行を根気強く続けなければならぬそうだ。

私はまだ大人への階段を上り始めた未熟者。

今は何をしてもすぐにあきらめてしまおうけれど、

どんな修行にもたえられるくらい、強く、たくましい大人になりたい。

もしかすると、この先「これだ！」

と思える職業が他にも見つかるかもしれない。

けれど、小さい頃から追いつけた憧れのこの夢。

これからもずっと持ち続けたい。

「内なる思い」

弓削中学校二年 中浜 理絵

私は、中学校へ入学して、部活動の入部のプリントをもらった。家に帰った私は、早速「バレーボール部に入部します」と書いて、母に印鑑を押ししてもらい「頑張る」との言葉と一緒に受け取った。

次の日、担任の先生に提出して、本当のバレー部員になった。バレー部に入ろうと思ったきっかけは、小学四年生の時にテレビでバレーボールワールドカップを見たこと。私は、バレーボールのとりこになってしまっていた。しかし、それだけではなかった。それ以上に私がバレー部に入ろうと思った理由。それは、小学生の時に経験して、ずっと胸の中にとまっていたあの思いがあるからだった。

私は、小学生の頃、バスケットボール、陸上、駅伝と四年生から六年生まで全てやってきた。強制ではないのでやらなくてもよかったし、やらない友達もいた。私は、足も速くなかったし、スポーツもうまいという程でもなかった。だけど、自分の苦手なことから逃げ、嫌いなことを避け続けていると、きつと全てにおいて逃げてしまう、そんな自分を不安に思い全て頑張った。

その中で、特につらかったのはバスケットボールだった。四年生の時は初めて先輩達とスポーツをするということもなかった。そのうえ、シユート練習になると、体も皆に比べて小さく、力もなかった私はシユート一本入れるのも苦労していた。それから五・六年生とバスケットボールを続けたが、心の隅には「バスケットは難しいからイヤだ」という気持ちがあったかもしれない。あの時の自分は確実

に逃げていた。毎日のこのような思いで、練習にも、ただなんとなく参加していた。そして、今日が小学校での最後の大会。惜しくも、決勝で負けてしまった。チームは優勝をねらっていたから、友達は悔しくて泣いていた。しかし、私の目からは悔しさの涙が一粒もこぼれなかった。その時私は、初めて思った。—自分は何を目標にバスケットをしていたのだろう—

中学校に入部してバレー部に入部し、私の「バレー生活」が始まった。初めてバレー部の練習に行った時に感じた、あの感覚は今でも忘れていない。先輩達の打つ力強いスパイクやサーブ、きれいなあがるレシーブ。心の中が「すごい」という気持ちだけでいっぱいになるくらい感動した。そして、ボールで練習させてもらった時、心の底から「楽しい」と思えた。

が、精神的な面も強化しなければいけなかった。それは、思っていた以上に大変だった。でも、それ以上に大変なことがあった。それは、キャプテンと同時に、エースとしてチームで一番技術的にも精神的にもうまく、強くなくてはいけないということ。...

六月から今日までにもたくさん試合をしてきた。でも結果はあまり良くない。私はまだ決定打というものが打てない。サーブも調子に波がある。試合を重ねるごとに反省する。他のチームのキャプテン・エースという人は、確実に点を取っている。自分と比べて何が違うのかを考えてみたり、その人のフォームを観察したりもした。だけど、最後は気持ちだ、ある試合で気づいた。

私は、チームで一番得点を取る、「真のエース」にならなければいけないという思いを常に自分の中に入れて練習に励んでいる。そしてそれ以上に、チームの支えとして、要としていつも堂々と前向きであるような心がけている。そうやって練習をし、試合に臨むと、試合前も試合中も緊張や不安は消え、のびのびとプレーすることができてきたように思う。満足する結果はまだ出ていないが、自分には「もつともつと上を目指したい」という思いがある。だから、これからも頑張っている、頑張っていると思う。私が私らしく、私にしかできないエースとなつて...



少年武を叩いた  
弓削中学校2年生



山上翼さんによる  
決意の言葉



「14歳の春」 斉唱



少年の日の主張  
「強くなること」  
村上梓さん



少年の日の主張  
「内なる思い」  
中浜理絵さん



記念行事  
餅つき大会



二年生の夏、私はチームのキャプテンになった。これは、自ら申し出た。キャプテンになつてからは、チームをまとめていかなければいけないという責任感が強くなり、チーム全体の技術面もだ

バレー部に入つて、たくさん悔しい思いをしたからこそ、今の自分があるのだと思う。総体まであと五ヶ月を切ったこれからは、さらに技術の向上を目指し、どんな時でも「自分に負けない」ように努力していきたい。そして、本番は「真のエース」となり「悔い」の残らないプレーをしたい。最後は「喜びの涙」で終われるように。

# 生名中学校【21名】

「優しい人」

生名中学校二年 村本 美香

「努力をすれば必ず誰かが見ている。もし、誰も見ていなくても私たちがみている。」……これは私が最近出会った言葉です。とてもすてきだと思っし、考えさせられた言葉です。この言葉は私の好きなミュージシャンの田中さんが母親からもらったメールだそうです。彼はまだメジャーデビューはしていませんが、私が尊敬している人です。彼がこのメールをもたらした頃、ちょうど精神的に落ち込みそうになっていたそうです。しかし、この言葉で、すごくパワーをもらったのだと言っていました。そして、今もそのメールは保存しているそうです。

少年式を迎えた  
生名中学校2年生



村上 皓則さんによる  
決意の言葉



少年の日の主張  
「震災から学んだこと」  
村上文哉さん



記念行事  
餅つき大会



少年の日の主張  
「優しい人」  
村本美香さん

その後、母親の心のこもったメールの  
お返しに、「産んでくれてありがとう。あなたたちのおかげでこんなに大きくなりました。いつか恩返しします。」と自分の誕生日に送り返したそうです。すると、「十九年前の十時二十分に、あなたは生まれました。私たちの息子に生まれてくれてありがとう。」という母親の言葉が返ってきたそうです。もちろんこれも大切に保存してあると語っていました。「普段はそういう話は別にしないけれど、言葉にして言ってもらえると嬉しい。」とも言っていました。

田中さんは、バンドを組んでいて、中でも一番メンバーを思う気持ちが強い人なようです。そして、優しさをもった人なので、友達もたくさんいるそうです。そんな友達思いの彼は、例えば誰かが「のどが渴いた。」と言っていると、さりげなく飲み物を用意してあげたり、ウソをついてもすぐばれたりするような人だと聞きました。周囲の人にも気配りができ、周りのことを考えて動ける人だと評価されています。そこまでする人なのに、「今年目標は？」と質問されると「一人に優しくすることです。」と言っています。彼は自分に厳しく、前向きだと思いましたが、人から「優しい人」とか「思いやりのある人」とか言われていても、ずっとよりよい自分を追い続け、「すごい人なんだなあ。」と思えました。

私は彼がこんな人だと知ったのはじめの頃は、「うまくつかわれているだけだ。」と思っていました。しかし、今では本当に尊敬できる人で、「本当に素直な優しい人なのだ。」と思うようになりました。彼が彼の母に送ったメールの内容も、その彼の母が返してくれたメールの内容も、「心からの感謝」や「生まれてきたことのすばらしさ」の意味が伝わってきたような気がしました。メールの中でも使われている「ありがとう」という言葉は、すごくシンプルですが、重みのある言葉です。彼が発する「ありがとう」の言葉の中には彼自身の「優しさ」がたくさんつまっているのだと思いました。だから彼は、あのような素直なメールを母に送ることができたのだろうし、他の人から評価を受けることができるのだと感じます。

私の母は仕事もっています。そんな忙しいなかでも、家族の食事の準備をしてくれたり、私たちの心配をしてくれたりします。しかし、私は母に注意されると、時々反発してしまいます。また、家事をしてもらえることもあたり前のよう思ってしまうことがあります。心では感謝している、言葉に出して「ありがとう。」と言えないような気がします。

# 岩城中学校【30名】

「将来の夢」(詩)

岩城中学校二年 古本 成美

今から十年後、私はどうしているでしょう

何の仕事をしているでしょう  
自分に何が出来るでしょう  
こんなことを考えると急に不安になってくる  
自分の周りの友達が偉い人に見えてくる  
私は保育士になりたいと思っている  
でも、今、自分が何をすべきかわからない  
何をしたら夢に近づけるのか  
今のままでは夢に近づけないと思う  
でも、何をしたら良いのか  
勉強・スポーツ両方ダメ  
ピアノも習ってないのでひけない  
少しずつ目標に向かってする事は出来る  
今から何かを始めよう  
自分の夢に近づける為に



記念行事  
餅つき大会



少年式を迎えた  
岩城中学校2年生

